



NO. 920
 発行
 2017年
 7月10日
 国鉄労働組合
 新潟地方本部
 発行責任者
 斉藤 仁司
 編集責任者
 教 宣 部

話し合う機会を多くつくる

組織拡大経験交流集会開く

地本主催、組織拡大経験交流集会が6月24日13時より地本事務所で開催されました。
 今年は、国労東日本本部の武田組織部長、彦田青年部長に講師をお願いしました。



13時15分に開会し、藤井執行委員の司会でスタートしました。

はじめに、地本・斉藤委員長のあいさつ、その後、武田組織部長の講演、つづいて彦田青年部長の講演が、それぞれ行われました。

そして、地本組織部から清野組織部長から提起がされ地本としての具体的な取り組みについて説明がありました。

全体でのフリー討議など参加者から職場の状況が報告・発言など取り組みについて意見交換がありました。



斉藤委員長 あいさつ



国労組合員全体が高齢化している。各地方では組織拡大が取り組まれている。新潟地本は、東日本本部9地本の中で拡大されていない。地本は組織拡大の運動ができていない。

拡大行動について、いろいろ闘いを作り上げてきた。エルダー職場で、いろいろ問題が発生している。労働条件改善などや身近な問題を改善していくこと。

みんなで話し合う機会を多く作っていくこと。もっと丁寧に取り組み広範に進めていくこと。

今日は、エリア本部から組織拡大の取り組みについて講演される。どう拡大していくのか、地本の取り組みに役立てていきたい。全体に運動が広がるような組織拡大経験交流集会にしたい。



全体の意見

○職場の若い人が研修などの意見発表が多い。自分の時間で資料を作成している。無給で参加させられている。不正をやめさせる取り組みを。研修などは会社の評価につながるのか。国労の立場を明確にしていくこと。

分会活動は重要だ。分会で歓迎会を開催する。皆が共有できる集会にしていく。集まること、集まれることを多く取り組んでいく。



●新採者は、駅に配属されても車掌になって転勤する。職場では国労を知らない人が多い。もっと国労を宣伝していく。存在を知らない青年が多い。宣伝の強化を。

○職場は平成採用者が多くなった。若手は、研修など意見発表がある。本社・支社への研修が多い。ひとりで行くつも参加している。若い人がどういう気持ちでやっている

のか。青年の気持ちはどうなのか。研修で発生した若手の穴埋めを50歳代の社員がやっている。不満が大きくなっている。

●職場で新採者の組合説明会をやっている。昨年は各労組と合同で開催したが今年は日程が合わず国労独自で説明会を開催した。

新採者からの質問「国労の名称についてなぜ国労なのか？組合費はいくらか？国労の優れていることは？」などあった。

○職場に2名配属された。東労組は歓迎会を開催した。若い人と話す機会が無い、難しい。青年の横のつながりは強い。情報を共有している。





○新採者など青年は横のつながりが強い。ラインなどのつながりだ。女性社員から相談があった。関連会社に働いていたが、JR東日本の採用試験に合格した。旅行業務の資格がある。

しかし自分の進みたい方向へ行けなかった。現場へ自分の意志を伝えることを話した。

東京の職場に居たとき職場に新採者の配属が毎年あった。分会で拡大の取り組みについて議論した。

新採者など国労への相談が多い。国労は信頼されている。しかし拡大につながっていない。駅へ配属されても2年で車掌になって転勤していく。転勤後、分会間の連携を密にしていくこと。



できる限り
進めていく
運動の継続を

全体のフリー討議では6名の方々から職場の実態や拡大の取り組みについて報告がありました。

報告・意見から全体の意思統一が図られました。新潟地本では、この



集会を契機に組織拡大行動の取り組みを進めていくこと。運動を継続していくこと。できるところから進めていくこと。など全体で確認できました。

交流集会終了後は、懇親会を開催しさらにお互いの交流を深めました。

第70回定期地方大会
9月16日(土)
10時から



武田組織部長あいさつ

大会以降、8名の国労加入があった。一括和解以降の拡大は227名。2016年度は8名の拡大、10名を切ったわけについて分析の結果、役員体制が新しくなったこと。分会組織が厳しくなったこと。



今年の8名の加入について分会組織全体が拡大をやっていく体制、少しづつ動き始めて拡大になった。

6月5日、青年労働者が国労加入した。職場で未加入だったので組織拡大経験交流集会に参加させた。国

労加入を訴え加入。そのとき国労加入して駄目だったら脱退しても良いと加入を呼びかけた。

未加入でも交流集会に参加させることが重要だ。参加させることが加入に結びつく。

6月5日、エルダー社員が国労加入した。エルダーも拡大対象者だ。郡山駅分会は一括和解以降、国労加入は16名だ。

郡山駅では組合説明会を開催している。国労が中心になって新採者の歓迎会を開催し10名が参加した。

東労組と一緒に組合説明会を企画したが東労組の上部機関に漏れて中止になった。国労独自の説明会を開催した。

東労組の歓迎会は、新採者が加入用紙にサインするまでスタートさせない。そして全てが加入させられる。



○他労組であっても送別会を開催すること。

○対象者は一人ではなく複数の若手に話をして加入につなげる。

○東労組役員も国労加入した。

○取り組みを継続してやる。

○毎年実施し年を重ねることでやれることが広がっていく。

状況の変化へ一括和解以降、試験の合格に変化。国労組合員の助役試験合格者が19名。会社からの組合脱退強要が無い。脱退者は1名で助役試験合格で脱退した。

会社は責任を持って差別させない環境になっている。国労差別が少なくなった。職場で国労が信頼されている。

新採者への対応へ会社は組合差別はしないと説明。未加入者が多くなった。未加入でも良いと会社説明がある。

国労組合員の息子、娘さんが入社している。国労加入は強制させられない。現場では国労組合員の姿を見て国労加入を決意する。

貨物会社へ東北支社で17名、関東支社で49名採用された。電気職場で未加入で配属される。拡大へ全組合員の取り組みく全分会のオルグの実施。機関紙を平成採へ配る。労働法制などニュースで知らせしていく。

彦田青年部長からも青年部運動からの組織拡大の取組みが講演されました。

第2部では、一杯飲みながら話が盛り上がり参加者全体が交流を深めました。お疲れ様でした。

